

## はじめに

洪恩と順縁のおかげで、ベトナム仏教会の僧侶の皆様方や人文社会科学大学（ホーチミン市国家大学）の熱烈なご支援を賜り、2012年末から現在まで、宗教研究センターは、学術研究、資料編纂、教育、特に国内及び国際学会大会の主催など様々な分野で、ベトナム仏教学研究院、ホーチミン市ベトナム仏教学院と連携してまいりました。今回も同じように、これまでの成果を発揮して、ホーチミン市ベトナム仏教会僧事部所属・尼僧部と当センターが協力して学会大会「ベトナムの女性仏教徒：伝統と現代」を開催しました。皆様がお手元にお持ちの本は、この学会大会の成果です。

皆様、

慈悲喜捨、無我為他、利樂群生の思想を持つ仏教は、差別することなく全てを平等に扱うので、古代から現代における人類のその他の深遠な思想体系と比べても、仏教は最も民主的で平等であり、開かれた寛容性を持っていると言えます。

ゴータミー説話（増支部三集）や瞿曇弥経（中阿含経第二経）のような原始経文によると、世尊が生きていた頃、浄飯王がこの世を去った後に、摩訶波闍波提が500人の釈迦族の女性たちを従えて、豪華絢爛なカピラ城を捨て、袈裟を身にまとい足には何も履かず、カピラ城から毘舍離城までの長い道のりを行き、「家族を捨て、死ぬまで家を持たず、如来が説く法と律に従います」と、世尊に女性の出家を認めてもらおうと懇願しました。阿難が何度か説得したのち、ついに世尊は八敬法を必ず守ることを条件に女性が僧伽に加わることを許しました。摩訶波闍波提は世尊から大愛道という仏名を賜りました。そして、摩訶波闍波提と500人の尼僧は比丘尼として尼僧団を創り、生涯を通して修行に励み、僧のように解脱に至りました。このときから尼僧団は僧団とともにありますが、これは喬曇弥のお導きのおかげであります。このように、この方は尼僧団の始祖なのです。

成立から今までの約2600年間、仏教尼僧団は日々発展して止まることなく成長しており、世界の多くの国々で積極的に活動しています。尼僧団と女性仏教徒（善女人）たちは、仏教や社会生活における様々な分野、特に社会安定活動、慈善活動で大きく貢献しています。ベトナムの女性仏教徒も同様です。

宗教研究センター、人文社会科学大学（ホーチミン市国家大学）、ホーチミン市ベトナム仏教会僧事部所属・尼僧部がこのたび共催で行う「ベトナムの女性仏教徒：伝統と現代」の目的は、女性仏教徒の伝統をその始まりから現在まで見直し、歴史上ないし現在の生活や社会活動における尼僧たちやベトナムの女性仏教徒の役割、地位、貢献を捉え直して認めることに他なりません。

この紀要に収録された論文はどれも上で述べたようなテーマに即した内容に着目しており、概括を述べた論文もあれば具体的な問題に踏み込んだ論文もあります。現状、現実から議論を始めている論文や、経文から教理や思想について研究した論文もあります。この紀要

に収録された論文は、それぞれの著者によって様々な視点から様々な側面について書かれています。そのため、内容の質が揃わないことも懸念されますが、幸運なことに、掲載した論文は主張する意見に相違はありながらも全て仏教全般及び女性仏教徒の教会と社会に対する地位と役割を積極的に肯定しています。

論文を選定し公開する過程で、委員会は各論文の精読、体裁の編集整理、歴史考証に尽力しました。しかしながら、まだ細微な間違いが残っている可能性があります。再版の折に論文を修正して完全な形にするために、学会大会組織委員会と紀要編集委員会は読者の皆様からのご指導ご鞭撻をお待ちしております。

近くにいる方、遠くにいる方、全ての方に向けて本書をここにご紹介いたします。

皆様の心身の常楽と、多くの吉祥をお祈りしながら、御礼申し上げます。

2016年

グエン・コン・リー教授

宗教研究センター副所長

人文社会科学大学（ホーチミン市国家大学）